

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270201114		
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社		
事業所名	グループホームバンドー弘前		
所在地	〒036-8065 青森県弘前市西北北2丁目3-11		
自己評価作成日	平成30年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年8月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>その人らしく、落ち着き穏やかに、また、楽しく毎日を過ごせるようなグループホームを目指し、日々支援を行っています。受診や外出の際は、専門のドライバーとスタッフによる介助により、入居者様の安全に配慮しています。また、医療連携により定期的な看護師の訪問があり、健康管理を行っています。更に長い年月の経過において、体力の低下によりグループホームでの生活が困難になった場合は、法人の有料老人ホームの紹介も行っていきます。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

<p>職員は理念について理解を深めながら日々のケアに努めている。入居者が季節の変化を感じる事が出来る様館内の装飾も工夫している。家庭的な雰囲気の中でゆっくり安心して過ごせる様に室内の温度や家具の配置等環境にも配慮しており、日々の健康管理に努めている。入居者に変化があった時はその都度本人や家族、職員間で話し合い対応している。病院によっては本人の体調が悪い時は訪問看護を利用し、医療との連携を密に行っている。月に1回家族にも状況を報告し、グループホームでの生活や健康管理など説明されている。近隣の散歩など地域の行事などに積極的に参加し、入居者の楽しみを見い出せるように支援を行っている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割等を念頭に、理念を作り、ホールに掲示している。又、カンファレンス時に確認するなどして職員間で共有し、サービスの提供に努めている。	理念の共有を図る為、ホール内に掲示し日々のケアの振り返りを行っている。カンファレンス時には職員同士で確認する場もあり、より良いサービスの提供を目指し支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より近隣の方へも挨拶を励行し、運営推進会議では、町会長・民生委員・宮園児童センター館長・警察官の方に参加して頂いている。また、児童センターの行事に招いてもらったり、逆に事業所のお祭りやクリスマス会などに来てもらったり、中学生の福祉体験学習なども受け入れている。	地域の活動にも積極的に参加し、交流を図っている。近隣の児童センターでの行事に出向き地域に根差したグループホームとして日常的に交流が出来るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、事業所の行事等の報告と共に、認知症の方の関わり方や介護について説明を行うなど、理解を深めてもらっている。また、中学生の福祉体験学習を受け入れており、介護について学ぶ機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施し、議事録を作成している。行事やサービスの報告をしたり、グループホームが災害時の避難所にもなっており、災害についても話し合いを行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施されており状況報告や意見交換等が行われている。議事録を作成し職員にも申し送られ内容が周知されサービスの質の向上に活かしている。災害時についても話し合いを行って次回の訓練内容なども密に話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組み等は、運営推進会議の時に主に伝えている。電話や書類提出時に相談したり、日常の連絡は本部を通して随時行っている。	市役所・地域包括支援センターの担当者には運営推進会議の時に主に伝えている。電話や書類提出時に相談されたり、何かある時は本部を通して随時連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の内部研修に盛り込み、身体拘束の内容やその弊害について全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束等の適正化を図る為、3ヶ月に1回は身体拘束ゼロ対策の会議を開催している。	身体拘束については内部の研修や外部の研修会で学び、職員一人ひとりが身体拘束に対し理解しており身体拘束をしないケアに取り組まれている。また、身体拘束等の適正化を図る為、3ヶ月に1回は身体拘束ゼロ対策の会議を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止は、年間の研修計画にも組み入れ、全員で確認している。管理者は、日々の声掛け等観察し、防止に努めている。また、高齢者虐待の5種類について職員の目につく場所に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画に組み入れ学習することで知識を得、必要に応じて支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書や事業所の理念、サービス内容等を説明し、希望を必ず聞き家族の不安や疑問点が少なくなるようにしている。解約時は、説明・情報の提供を行い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置すると共に、契約書に明記し説明している。また、運営推進会議や面会時に外部、家族の意見・要望を聞いている。その他、本部より要望受付に関する文書の送付を行っている。	玄関に苦情箱を設置され、家族には入居時に説明し契約書にも明記されている。また、職員は入居者や家族に日々の生活の状況を1ヶ月1回定期的に写真を添え報告している。要望等がある時はそれを運営に反映させるように話し合いされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや会議等で提案されたサービス、意見、要望はみんなで考え反映させていくよう取り組んでいる。職員の意見等については、管理者やグループホーム事業部担当者が聞き取り、集約したものを代表者に伝達し、検討してもらっている。	日々の会話やカンファレンスの中で職員の要望や意見を管理者が聞き取り、それをグループホーム事業部担当者へ伝え、集約したものを代表者に伝達され、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や実績を把握し、職位の変更や昇給など、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を年間計画のもと、毎月行っている。スキルチェックシートを用い、自己評価を行うと共に、個々に目標をたてた上で業務にあたるなど、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会などに参加したり、同法人の他のグループホームとの合同での講習で、交流する機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安な事を受容・傾聴し、安心して頂けるようにしている。また、信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居受付担当者が相談の受付をし、説明後、サービス利用時には、管理者が困っている事や不安な事等に耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の段階で見極め、安心出来るサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしているので、人生の先輩として尊重し、考えを聴いたり、出来る事は一緒に行なう等、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族双方の近況や情報を得て、共に支援している。ご家族にも必要時本人への支援等を行なって頂き、家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や外出、電話や遠くに住んでいる家族との手紙でのやり取りを支援している。	本人の希望に合わせ手紙を書いたり、電話をかけたりにして支援している。また、知人との外出支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の体調にあわせ、一緒に出来ることを行い、孤立しないよう努めている。職員も適宜介入する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じており、状況に応じて法人内で連携しながら相談・支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や表情、仕草などから意向をくみ取り対応している。また、洋服がないと落ち着かない利用者には、家族から説明して頂き納得してもらおう等、家族の協力も得ながら支援している。	日常の会話の中で本人の思いや意向の把握に努めている。また、困難な場合は家族にも相談し、本人本意の意向がくみ取れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族より、生活歴や暮らし方・生活環境等の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活リズムを把握している。また、有する力を発揮出来る様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの見直しは3か月に1回実施している。本人、家族より要望や意向を確認する他、関係者より意見やアイデアをもらい、カンファレンスをし、一人ひとりに合った計画をチームで作成している。	3か月に1回モニタリングの見直しをしている。本人や家族の意向を確認し、職員から意見を聞き、チームで計画書を作成されている。また、状態変化時にはその都度会議を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫等記録し、申し送り、情報を共有している。また、ケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携により、健康面のサポートをしている。また、受診や外出時の送迎支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、町会長・民生委員・宮園交番・宮園児童センター館長の協力で、安全に、楽しめるような支援をしている。児童センターの子供達との、世代を超えた触れ合いを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は、本人・家族の希望を聞き継続している。適宜、納得のいく医療を受けられるよう支援している。	グループホームの協力医院もあるが、本人のこれまでのかかりつけ医に受診が行える体制が整っており、本人や家族が安心して受診が出来る。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が気づいた事や情報より、医療連携の看護師に相談したり、適切な受診が出来るように支援している。また、ユニット1の管理者は、正看護師の資格を有しており、健康面にも配慮しながらケアにあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時安心して治療出来るよう、家族へのフォローをしている。また、適宜面会し状況の把握に努め、早期退院出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、入居時に本人、家族に説明し、グループホームの方針を理解して頂き、共有して支援している。	入居前に本人と家族に重度化や終末期について説明をしておき、理解を得ている。また、退居後についても最後まで支援できる体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は、普通救命救急講習を受講している。また、救急時の対応マニュアルを掲示したり、急変時や事故発生時の対応について研修会を行い、いざという時に支援出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に設備の点検をし、避難・誘導訓練の実施を年2回している。また、保存食の確保もあり、災害発生時の本部との協力体制もできている。運営推進会議でも議題とし、災害時の避難場所を確認するとともに、事業所が一時的な避難場所ともなっている。	訓練を年2回実施され、日々のグループホーム内の定期点検や保存食の確認を行っている。運営推進会議では災害時の話し合いでグループホームが地域の避難場所になっている確認もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し声掛けや対応を行っている。聴力が低下している方には、ジェスチャーを交えてさりげなく声掛けしている。また、介護従事者業務水準の指針を設け、内部研修を行っている。	入居者一人ひとりの人格を尊重し、声掛けや対応に気をつけている。管理者は職員の話し方にも気を配っており、人格の尊重とプライバシーについての内部研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表し、その人らしい生活を送ることが出来るよう、また、会話や行動が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるが、その方のペースにあわせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアースタイルや服装などは、その人らしくいられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、おしぼりの準備等、手伝いの機会を作っている。盛り付けにもその方の好む見た目の工夫をしている。また、月に1回は外食の機会を作っている。	食事の準備など出来ることを行える機会を作っている。本人の好みなども普段の会話から聞きとり、食事を提供されている。また、月に1回は外食の機会があり入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立になる様に食材の工夫をしている。食事量はその方により違うので、微調整している。水分量も一日を通じて確保できる様、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせたケアを行い、口腔内の清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握している。また、落ち着いた素振りや表情からも汲み取り、誘導しトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方にあった対応がなされている。チーム内で話し合いを行い、その方にあった誘導がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維が多い物の提供や、適宜、腹部マッサージをしている。また、軽い運動なども支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回入浴日を設け希望に合わせた入浴介助をしている。入浴を拒む場合は、言葉かけやタイミングを見て、再度一人ひとりに合わせて支援している。	入浴は週2回行われており、入浴が出来ないときは必ず足浴を行ない、清潔を保たれている。体調によって入浴出来ない時は、翌日入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、その時々に応じ休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに調剤情報書を入れており、職員が把握している。また、薬の変更時は何が変更になったかを印を付け判り易いようにし、申し送り確認している。症状の変化については、日々の状態をみながら把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品や楽しみごとなどを把握し、気分転換等出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花壇の水やり等、外に出掛ける機会を作っている。また、通院後の時間を利用したり、普段行けない場所でも出掛けられる様、家族や友人の協力を得て支援している。	天候や本人の体調をみながら外を散歩されたり、通院時に買物をしたりと本人の希望に合わせた支援がなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承と、利用者の力量に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に電話の支援をしているが、ハガキの返事も一緒に考え、やり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる事が出来る飾り付けを行ったり、植物を置く、採光に配慮する等、居心地良く過ごせるように心掛けている。また、毎日、温度と湿度を測定し、調整している。	季節に合わせた飾りつけや、行事での写真を飾っている。職員が毎日の気温や湿度も観察して記録しており空調にも気を配られている。また、みんなが過ごしやすく居心地よく過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなソファや椅子がその方の居場所と思われるので、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持参している方もおり、利用者と家族が相談し、好みの居室空間となるようにしている。	自宅で使い慣れた物は、本人、家族と相談しながら居室に持ち込む事が出来る。家族の写真やテレビ等、本人の状況に合わせて配置されており、本人にとって居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレには手すりを設置し、安全で自立した生活が出来るよう支援している。		